

令和3年11月の解説（府県天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は周期的に変化しました。2日から4日にかけて北日本をゆっくり通過した低気圧や上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となりました。このため、北海道や青森県では局地的な大雨となった所があり、2日には北海道木古内町で最大10分間降水量55.0mmを記録し、全国での観測史上1位を更新しました。その後、7日頃にかけては北日本、東日本及び西日本では高気圧に覆われて晴れたところが多くなりました。一方、東シナ海から日本の南に進んだ低気圧や前線の影響で沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。8日から10日にかけては、前線を伴う低気圧が中国東北区からゆっくりと東進し、北海道に進みました。このため、低気圧、前線や寒気の影響で全国的に雨が降り、石川県金沢市では10日に11月としての日降水量の記録を更新するなど大雨となった所もありました。

中旬は、東日本と西日本を中心に晴れた日が多くなりました。15日までは、サハリン付近に低気圧が停滞する一方、大陸の高気圧が華南付近で強く、西日本中心の西高東低の冬型の気圧配置が持続しました。このため、東日本太平洋側と西日本太平洋側を中心に晴れた日が多く、西日本と沖縄・奄美は気温が低い日が多くなりました。一方、寒気の流入が弱かった北日本は気温の高い日が多くなりました。16日以降は、北日本太平洋側と東日本と西日本を中心に帯状の高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、18日から19日にかけては前線の影響で沖縄・奄美では雨となりました。また、19日から20日にかけては前線を伴った低気圧が日本海北部からオホーツク海に進んだため、北日本では雨となりました。

下旬は、21日から24日にかけて、偏西風から切り離されて動きの遅い低気圧が発達しながら日本海北部からオホーツク海に進みました。この低気圧、前線や寒気の影響で、全国的に雨や雪が降り、北海道上川地方で24日に記録的な降雪量となった地点もあるなど、大雨や大雪となった所がありました。低気圧の通過後は西高東低の冬型の気圧配置となり、北日本日本海側と東日本日本海側と沖縄・奄美では曇りや雨や雪の日が多く、東日本太平洋側と西日本では晴れた日が多くなりました。30日には低気圧と前線の影響で西日本では大雨となった所もありました。

【11月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より3ポイント高い88%で、明後日予報は例年値より4ポイント高い86%でした。地方別の適中率では、明日予報は、九州南部を除いた各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、沖縄を除いた各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.5℃小さい1.1℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の天気予報の利用にあたって】

1月は、日本海側の地方では、冬型の気圧配置となって風が強まり、雪や雨の日が多くなります。日頃から大雪や暴風雪に備えて下さい。また、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなる一方で、日本の南海上を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。天気予報とともに、大雪や暴風雪についての警報や注意報、最新の気象情報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。